

この瞬間に  
世界中が恋をした。

# パリが愛した 写真家

## ロベール・ドアノー〈永遠の3秒〉

Directed by Clementine Derouille

監督: クレモンティーヌ・ドルディル

DAY FOR NIGHT et JOURFETE present ROBERT DOISNEAU: THROUGH THE LENS  
A film by CLEMENTINE DEROUILLE, produced par JAN VASAK, photography by GREGOIRE DE CALIGNON,  
sound by BENJAMIN BOBER, editing by MARIE DEROUILLE, artwork by EMMANUEL GUBERT, original soundtrack by ERIC SLABIAK,  
A DAY FOR NIGHT, ARTE FRANCE, INA, I ATTELIER ROBERT DOISNEAU coproduction  
With the participation of TV5 MONDE and CZECH TELEVISION,  
With the support of CENTRE NATIONAL DE LA CINÉMATOGRAPHIE ET DE L'IMAGE ANIMÉE, of the PROCIREP and of the ANGOA

copro  
arte  
INA  
Czech  
TV5MONDE

配給: ブロードメディア・スタジオ Broadmedia

©2016/Day For Productions/ARTE France/INA



[www.doisneau-movie.com](http://www.doisneau-movie.com)

# Robert Doisneau

人々の心に刻まれる恋人たちの写真「パリ市庁舎前のキス」  
20世紀を象徴するフォトグラファーの愛と幸せを運ぶドキュメンタリー

## 誰もが憧れる“ロマンチックなパリ”的イメージを世界中に広めた“一枚の写真”



フランスを代表する国民的写真家ローベル・ドアノー。その名は知らないとも「パリ市庁舎前のキス」という写真を目についたことのある人は少なくないだろう。1950年にアメリカの雑誌「LIFE」の依頼で撮影されたこの写真は、1980年代にポスターとして発売され世界中で知られるようになった。以来、この写真は愛<アムール>の国・フランスの象徴として、現在でも広く愛され続けている。本作では、世界でもっとも有名な恋人たちの写真となったこの写真の知られざる撮影秘話も明かされる。



### なぜ、ドアノーの写真は時代を超えて愛され続けるのか—

本作は、そんな写真家ローベル・ドアノーの人生と創作の秘密に迫る、初めてのドキュメンタリー。撮影風景やインタビューなどの当時の貴重な資料映像や、女優のサビース・アゼマなど親交のあった著名人による証言により、数々の名作をこしたドアノーの写真家人生を浮き彫りにする。監督は、ドアノーの孫娘であるクレモンティーヌ・ドルディル。

家族だからこそその視点で、優しさにあふれた祖父、撮影にこだわりなく写真家の両面を描き出している。



### 人間への限りない“優しさ”と“好奇心”に満ちた写真家

ドアノーがカメラに出会ったのは、戦争や母の病死など悲しい幼少期を送っていた13歳の頃。初めてカメラに触れたたちまち写真にのめり込み、生涯を通してパリで生活する人々の日常をとらえつづけた。一日中歩き回っては、優しいまなざしでレンズを覗きこみ、街角に潜む何気ない“瞬間のドラマ”を職人技で釣り上げる。そして、ときにはモデルを使い演出によって“人生の真実”をより深く表現する—。彼の独自の写真哲学による撮影は、じつは今まであまり知られてこなかった。



“パリの街角。日常に隠れた  
”小さな物語“を探して



今まで成功した写真はせいぜい300枚。  
1枚が1/100秒だとすると、  
50年でたったの3秒だなんて、すごいだろ!  
時間によって  
風景だって、  
ありふれた  
角度や  
美しさを  
放つことができる。

ローベル・ドアノー Robert Doisneau (1912-1994)

パリ郊外のジャンティイ生まれ。ルノー社のカメラマンを経て、フリーとして活動を開始。「ヴォーグ」誌や「ライフ」誌でファッション写真を始めとして多くの写真を発表、国際的に注目される。特にパリの庶民たちの日常をとらえた写真で高い評価を得る。また、パブロ・ピカソ、アルベルト・ジャコメッティ、ジン・コクター、フランソワーズ・サガン、イヴ・サン=ローラン、クリスチャン・ディオールなど同時代を代表する数多くの芸術家のポートレイトを発表している。今でも世界各国で回顧写真展が開かれ続けている。

不服従と  
好奇心は、  
写真家の  
原動力だ。

——そこに小さな劇場を作る。  
舞台のように左右や天井、  
床を決めて枠を定めるんだ。

写真は撮った瞬間にすべて過去になってしまう。  
まるで過去を振り返る鏡のようだ。

